

ひがし たけだ ちょう
町名考
東竹田町

大伴氏の領地「猛田」

日本書紀の神武記に「皇師（みいくさ）皇軍（たてたけ）の立誥（たてたけ）びし雄叫びした
処（ところ）、是（これ）猛田（たけだ）と謂（い）う」とあり、この猛田が古代武族・
大伴氏の領地「竹田庄」だったといえます。

万葉歌人・大伴家持（おとおものやかもち）の叔母に当たる大伴坂上郎女（さかのう
えのいらつめ）が、この地を「うち渡す竹田の原に鳴く鶴（たづ）の」と万葉集（巻
四―七六〇）に詠んでいます。久安四（一一四八）年の東大寺文書にも同地を「竹田庄
と号す」とあり、地名の古代からあったことが分かります。

古くから大和（奈良）では、川辺の堤が切れそうなところに竹を植え堤防を補強しま
した。このような川辺の湿地帯を「竹田」「武田」「高田」などと呼び、いまも約三〇か
所が県内の平野部に残っています。町の西側を寺川が南から西北に向けて流れる当地に
も、こんな所があつて地名が生まれたのでしょうか。

土地の氏神・天香具山命（あまのかぐやまのみこと）を祭る旧村社・竹田神社が、同
町（字堂垣内）に鎮座しています。ちなみに「西竹田」は、隣の田原本町にあります。